

市制施行40周年

広報



あくね

阿久根特産
アクネ
うまいネ
自然だネ

第545号



平成4年

6月号

豊作を祈って

市制施行40周年を祝う

盛大に記念式典開く



多くの市民が出席し、盛大に開かれた記念式典

市制四十周年を祝う記念式典が五月二十二日、市民会館大ホールにて盛大に開催されました。

式典では、各分野において市勢発展に尽力された方々を表彰し、永年にわたる努力に感謝するとともに、その功績を讃えました。

また、平成四年市民表彰も同時に行われ、参加者たちは今後一層の努力と、市勢発展への貢献を誓っていました。

「更なる発展を誓う」

市政功労者を表彰

地方自治など4部門118人

当日は天候にも恵まれ、式典には市内外から約四百五十人が参加。まず全員で物故者に黙とうを捧げたあと、新伊勢記市長が「恵まれた自然と歴史を大切にしながら、発展に向け市民の英知と創意を結集しましょう」と式辞を述べました。

続いて、市政功労者として地方自治、教育文化、社会福祉、産業経済の四部門百十八人を表彰。新伊勢市長から各部門の代表者に表彰状と記念品が手渡されると、出席者から大きな拍手が送られていました。

各部門ごとの表彰者は次のとおりです。

地方自治部門

坂元善文(上野・第七代市長、第四～八代市議会議長、文化協会会長、体育協会会長) 瀨上信久(出水市・第十九代三五村長、第三代市議会議長) 江良英千代(橋之浦東・第三代市議会議長、第三～六代市助役、森林組合長)

小野義成(鹿兒島市・第七代市助役) 羽田廣(長野・第四～五代市収入役) 中野勝雄(仲仁田・第六～七代同) 高原茂(長谷・第八代同) 瀨之上訓衛(下村・第十一代同) 神之田徳美(大丸・県議) 伊庄吉(大丸・同) 牛之瀨水雄(牛之浜・第十代市議會議長) 梶尾孫兵衛(黒之浜・第十三代同) 富吉福蔵(佐潟・第十四、十七代同) 迫口保雄(桐野下・第十五代同) 平石正美(瀬之浦上・第八～九代市議會議長) 山田政(古里・第十六代同) 中村健一(弓木野・第十七代同) 京田勇(瀬之浦上・第十八代同) 上野重春(陳之尾・市議會議員、農業委員) 黒崎定男(中村・市議會議員) 福田重則(佐潟・同) 磯畑敬治(新町・同) 森山勝一(長島町・同) 折橋伸幸(上野・同) 河野義夫(大丸・同) 坂元龍馬(浜・同) 田上正(小瀬・同) 山下肇(上野・公平委員) 松元景三(下村・同) 黒神嘉樹(波留・選挙管理委員、監査委員) 川畑開(川畑中・選挙管理

阿久根市制施行40周年功勞者表彰受賞



阿久根市制施行40周年功勞者表彰受賞



阿久根市制施行40周年功勞者表彰受賞



阿久根市制施行40周年功勞者表彰受賞



晴れの表彰を受けた市政功勞者と市民表彰受賞者の方々

委員) 双津末義(上原・農業委員) 松永良速(牛之浜・同) 井坂一市(小渡・同) 松崎徳男(古里・同) 山下正雄(橋之浦西・同) 石澤正徳(下村・区長) 濱崎雅(浜・同) 池上博義(大丸・同) 白石十郎(町・同) 中平次男(折口東・同) 大庵國男(大丸・消防団長、消防団員) 神之田月教(中屋敷、消防副団長、消防団員) 垂壽(波留、消防団員) 川畑武利(仲仁田・同) 橋房昭(大丸・同) 赤木勝雄(波留・同) 中野正昭(協本浜・同) 漆崎正美(協本浜・同) 川原忠(波留・同) 杉良春(大川島・

同) 高津福一(協本浜・同) 大鹿等(大鹿・同) 高原功(長谷・同) 杉光雄(飛松・同) 石澤悟(大鹿・同) 大鹿重信(大鹿・同) 花田房義(川畑中・同) 波留學(波留・同) 花田銀市(的場・同) 下脇一利(寺山・同) 太田弘治(段・同) 田島貞夫(波留・同) 川原實(波留・同) 波留國雄(鴻・同) 宮田寛治(波留・同) 栗林万吉(羽田・同) 江濱誠三(協本浜・同) 野野崎達雄(協本浜・同) 浦嶋盛大(協本浜・同) 富瀬操(協本浜・同) 角一雄(波留・同)

黒崎榮(段・教育長) 峰徳栄(浦・同) 池田友吉(国分市・同) 川崎石右衛門(尾崎・教育委員) 赤木義衛(橋之浦西・同) 濱之上九州男(協本馬場・学校医) 大塚徳平(浜・同) 平ミドリ(古里・同) 内山達四郎(高松・同) 飯塚福岩雄(中村・同) 上園清吉(町・同) 堀切正冬(新町・同) 吉市哲朗(新町・同) 橋口菊弥(大丸・同) 瀬戸口浩(町・同) 鳥飼忍(大丸・同) 鳥飼忠尚(新町・同) 吉野清任

(町・体育指導員) 西田庄右衛門(高之口・同) 松岡敏夫(大丸・ボクシング協会会長)

教育文化部門

社会福祉部門

白濱信彦(新町・水産振興) 坂元庄蔵(浜・同) 濱崎宗人(浜・同) 洲崎喜郎(黒之浜・同) 杉光喜(大川島・同) 濱崎伊太郎(佐湯・同) 慶越誠喜(永田上・農業振興) 上野時義(陳之尾・同) 西田福七(下村・同) 釜勉(大洲川・林業振興) 田野正治(中村・商工業振興) 若松光仁(上野・同) 大田時芳(大丸・同) 下園察兵衛(的場・特産品開発振興) 中野行雄(田代下・竹林振興)

産業経済部門



功績を讃え受賞者に表彰状が手渡されました

平成4年 市民表彰

黒神嘉樹さんら4人に市民特別表彰

一般表彰は22人と27団体

平成四年の市民表彰式は、市制四十周年の記念式典と同時に開催されました。

社会に貢献された方及び一般篤行のあった方などを表彰する市民特別表彰では、黒神嘉樹さんら四人を表彰。また、地方自治

や産業経済など各部門で功績のあった方々を表彰する一般表彰では永田早苗さんら二十二人と二十七団体が表彰されました。

※敬称略

市民特別表彰

▼地方自治部門

○黒神嘉樹（波留）選挙管理委員、代表監査委員、文化財審議委員を勤め、永年にわたる地方自治功勞

▼教育文化部門

○若松金三（尾崎）教育委員会委員及び教育委員長職務代理者として教育振興に永年功勞

▼特別感謝

○法福修佳（北海道）北海道在住の阿久根市出身者で教育文化向上のため市立図書館へ多額の浄財を寄付

▼一般篤行

○平真紀（上原）社会福祉の重要性を認識し、永年にわたり寄付行為を継続

一般表彰

▼地方自治部門

永田早苗（永田上・区長永年勤続）田淵初喜（寺山・同）寺下竹雄（高松・同）川畑芳美（遠見ヶ岡・同）桃山学（黒之上・国保運営委員、農業委員）中屋敷区（優良納税）仲仁田区（同）柳区（同）木佐木野区（同）内田区（同）永田上区（同）鶴本浜区（同）筒田区（同）黒之上区（同）松ヶ根区（同）馬見塚区（同）落区（同）横手区（同）長谷区（同）尾原区（同）米次区（同）田代中区（同）丸内区（同）瀬之浦上区（同）瀬之浦下区（同）川畑中区（同）新留秀雄（永田上・消防団副団長、消防団員）若松成人（川畑中・



10年間、福祉活動に寄付を続け、特別表彰を受けた

平真紀さん(14)

三笠中学校2年の平真紀さんは、保育園に入った3歳のころから、おこずかいなどを貯めて、毎年、社会福祉活動に寄付を行っています。おじいさんが福祉関係に従事されていたことが、寄付活動を始めたきっかけだとか。「途中、何度もやめようと思ったけれど、頑張って続けたのが良かった。表彰を受けたことが信じられない」と喜びを語ってくれました。表彰式の日が14歳の誕生日だった真紀さん。今回の受賞は10年間の努力の積み重ねの結果といえます。

▼産業経済部門

藤園喜蔵（大川島・水産振興）川本光義（町・水産加工）的場博美（的場・塩干加工）小園契（町・商工振興）餅越義藏（町・木野・竹林振興）山平勝（小流・農業振興）折橋文雄（町・木野・林業振興）出口矢次郎（中村・獣医師）山口達男（段・同）馬場誠人（吉里・三笠簡易水道）山平末義（臨本馬場・鶴本簡易水道）陳之尾区（市道清掃）木佐木野区（同）

▼社会福祉部門

柳野下区（国民年金確認率優良）永田上区（同）的場区（同）横手区（同）

40年を振り返って…

「たゆまぬ発展の足跡」

四十歳を迎えた阿久根市。今日に至るまで様々な出来事がありました。今回は本市にとって重大な転機であり躍進の時でもあった、市制施行と三笠町の合併を中心に、年表をもとにしなから四十年を振り返ってみましょう。

阿久根市誕生

昭和27年

本市は昭和二十年八月十二日、米軍機の空襲により壊滅的な打撃を受けました。しかし戦災復興にいち早く取りかかり、二十六年ごろになると町並みもぎやかになり、諸施設・機関も整ってきました。

二十六年十一月には前年市制をした串木野市を調査。法的条件、諸施設、市街地の状況などから、市としての諸条件を満たしていると判断。市制施行の時期を二十七年四月一日と決め、町議会とともに態勢づくりを進めました。

二十七年二月十二日、町議会

で「阿久根町を廃し、阿久根市を設置する」ことを満場一致で可決。二月二十五日には県知事へ申請書を、県議会議長へ陳情書を提出しました。

順調にいくかと思われた矢先、当時政府が市としての条件を人口五万人以上に引き上げる意向をもって、とが判明。案親を許さぬ状況に、町は何として四月一日をもって市制を実現するため、郡内進出の県議らに協力を要請、県当局へも強力な運動を展開しました。

その結果、県議会に上げられた市制施行の請願が、三月の県議会総務委員会において採択審議する段階にこぎつけました。



市制施行当時（昭和27年）の市街地全景

審議は、阿久根町民の民意を尊重する線で見解が一致。三月三十一日の本会議で議案として上程され、満場一致で可決。翌日、県は「出水郡阿久根町を阿久根市とし、昭和二十七年四月一日から施行することを定めた」という告示を行いました。

1952	1960
27年4月	市制施行
5月	上水道給水を開始する
28年3月	戦災復興都市計画が完了する
5月	海岸線一体が阿久根県立公園に指定される
11月	三笠村が町制をしく
11月	市営と畜場を設置する
29年7月	戸柱山に護国神社が落成
11月	都市計画地区町名、地番変更が完了する
30年4月	三笠町を合併する
31年1月	黒之浜地区に簡易水道が完成する
32年10月	市営自動車試験場を設置する
12月	折多地区土地改良事業が完成する
33年3月	商工会が商工会議所に昇格する
4月	臨本に市立保育所を設立
6月	NHK、MBC阿久根放送局が開局する
6月	阿久根港改修工事が竣工する
10月	港橋が竣工する
10月	阿久根郵便局が普通郵便局に昇格する
36年1月	九州地方建設局阿久根出張所を誘致する
7月	阿久根小が完全給食を開始する
37年1月	消防タンク車空庫号を購入
5月	大川診療所が開設される
7月	市制10周年記念式典が行われる
10月	阿久根港が第3種漁港に昇格する
38年7月	新町の国道、国鉄が立体化される
8月	聖園老人ホーム、黒之浜灯台が完成する
39年3月	名譽市民第1号に柳庄右衛門氏
9月	東京オリンピック聖火が阿久根に一泊する
40年2月	九州皮革工場を誘致する
4月	阿久根消防署が発足する
8月	台風15号襲来
41年3月	市民会館が落成する
42年4月	農業構造改善事業に着手
7月	救急車を購入、救急業務を開始
11月	阿久根電報電話局が完成、ダイヤル通話となる
43年11月	明治百年記念式典が行われる
44年3月	市民体育館が完成する
5月	高松川防災ダムが完成する
5月	高松橋の架け替え工事終わる

三笠町合併

昭和30年

昭和二十八年に町村合併促進法が制定され、増大する地方自治の事務を処理するため、町村規模の拡大を図り自治能力を強化する取り組みが行われました。三笠町は当時人口九千三百人あまり。初め江内村との合併を試みましたが、意見の一致が得られず計画は打ち切られました。昭和二十九年、県は阿久根市と三笠町の合併計画案を策定し、意見を求めてきました。両市町は隣接しており、交通、経済、民情の一体性を有しており、合併することで住民福祉の増進がはかられるというのが主な理由でした。

三笠町では合併についての調査研究をすすめるとともに、町民の意向の把握に努めました。一部には反対の意見があったものも、最終的には町に一任することになり、二十九年十一月六日、合併したい旨県と阿久根市へ申し入れを行いました。一方、これを受けた阿久根市では、議会において特別委員会



を設置し、合併へ向けて慎重なスタンスが切られました。市民の意向調査では、三笠町、野田村、江内村の一市三町村合併の意見が強く打ち出されましたが、町村においても複雑な事情があり、早急な実現は無理と判断。県当局の考えや県下の情勢を判断し、人口五万の市をつくるためにも、まずは三笠町との合併をすすめることが最善の策であるとの考えから、市議会は三十年四月一日をもって三笠町との合併をする方針を固めました。そして、三十年三月十五日、阿久根市議会と三笠町議会は両市町の合併を満場一致で可決したのでした。

災害苦悩の時

昭和40年代

合併当時の人口は四万一千人、世帯数八千百戸でした。昭和三十年代後半には国道三号の整備も急速に進み、四十年にはいると九州皮革工場（現在の鹿児島製靴）が、本市誘致企業第一号として操業を開始、徐々に産業・経済の基盤整備も図られてきました。しかし、四十年代は大きな台風や集中豪雨にみまわれ多くの被害を出した時代でもあり、躍進しようとしていた本市にとっては、苦悩の時代でもありました。

高松川の堤防決壊で市街地は水びたし(昭和46年)

四十年と四十六年にはそれぞれ台風十五号、十九号が襲来。四十六年から四十八年までは集中豪雨により多くの被害がました。特に、四

1970	1980
45年1月	57年4月
細井製作所阿久根工場が操業開始 虎印グロブ工場が進出する	8月
46年6月	57年3月
第7長水丸牛深航路が廃止される 集中豪雨による激甚災害が発生、死者10人、被害額24億円にのぼる	3月
47年3月	55年12月
市営大聖冷蔵庫が完成する 総合グラウンドが完成する	12月
48年7月	56年3月
黒之瀬戸大橋が開通する	3月
49年4月	55年11月
阿久根市、東町、長島町の1市2町で阿久根地区消防組合が結成される 黒之瀬戸大橋が開通する	11月
50年4月	54年4月
丹宗忠市長逝去、名誉市民第2号となる 県道阿久根1号深線が国道389号に昇格する	4月
51年5月	53年5月
松田漢氏名誉市民第3号となる	5月
52年3月	52年9月
阿久根漁港第5次整備事業完工、産地水産物流通加工センター形成事業も同時に竣工する 鶴見地区都市計画事業に着手する	9月
53年5月	51年12月
新市庁舎が完成し市役所が移転、同時に消防署庁舎も新庁舎に移転する 勤労者体育センター・老人福祉センターが完成	12月
54年4月	50年12月
「国立阿久根療養所」が「国立療養所阿久根病院」に名称変更、施設の拡充整備が進む 戸柱公園にフィールドアスレチック村が完成する	12月
55年12月	50年11月
阿久根市食肉センターが完成 市民会館改装工事が完成する	11月
56年3月	50年10月
国道3号大川バイパスが開通する 大林、多田地区に上水道が完成する	10月
57年3月	49年11月
保健センター・働く婦人の家が完成する 臨本地区公民館が落成する	11月
57年4月	48年10月
B&O阿久根海洋センターが完成する 第2次阿久根市総合開発計画を策定する	10月
市制施行30周年記念式典が行われる 全国高等学校総合体育大会ボクシング競技が行われる	8月

十六年七月、十二日の集中豪雨では、十人の命が一瞬のうちに奪われ、総被害額は二十四億二千万円にも上りました。

機能充実へ向け

昭和50年代

昭和五十年代にはいると各種施設整備が積極的に進められました。

五十二年には三笠町合併以来の懸案であった、市役所新庁舎が完成。行政効率の向上がはげられました。

また、勤労者体育センター、老人福祉センター、働く婦人の家などが建設され、市民各層における活動施設の充実もはかられました。現在社会体育の拠点となっている総合運動公園の建設も始められました。

鶴見地区の土地区画整理が完了するとともに、川市庁舎跡を中心に、大型店舗が進出し、商業集積地が形成されたのもこの時代です。

豊かな 活力ある 阿久根市へ

地方の時代が盛んに叫ばれるようになった六十年代になると、本市でも固有の地域振興策を展開。水産業では、いち早く栽培漁業センターを建設し、資源確保と漁家の収入安定をめざし、同時に農林業では、農林業振興センターにより、ヒラタケなどの種菌栽培、研究により新しい特産品づくりを開始しました。



昭和53年頃の鶴見地区（左側は建設中の市庁舎）



今後「美しい村づくり事業」により整備が進められる阿久根漁港

また地域おこしの一環として、ボンタンロードレース大会を充実、県内でも有数の大会となりました。全国に阿久根の名を広めたイワシのふるさと便は、回を重ねるごとに利用者も増えてきています。

平成三年には水産加工団地も完成。現在、潟土地区画整理事業により新市街地の形成と、番所丘公園の建設により大型レクリエーション基地の創設も進められています。

阿久根市は第二次総合開発計画にそって、豊かな活力のある都市をめざし、来るべき二十一世紀に向け、たゆまない前進を続けています。

1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	1981	1980	1979	1978	1977	1976	1975	1974	1973	1972	1971	1970	
57年11月	58年5月	7月	11月	3月	12月	3月	11月	10月	10月	4月	5月	7月	10月	7月	4月	3月	3月	3月	3月	4月	
昭折はしご付消防ポンプ自動車を購入する	阿久根大島の松林が日本の名松100選に選ばれ	鶴見地区土地区画整理事業が完成	旧市庁舎跡地が商業集積地として協同店舗が立地	いこいの森に総合案内施設が完成する	青年の家が完成する	第1回ボンタンロードレース大会を開催する	林業構造改善事業鶴川内集会所建設が完成する	阿久根市栽培漁業センターの建設着手	市立郷土資料館が開館する	弓道場、ソフトボール場、テニッ子広場が完成	潟土地区画整理事業の事業計画決定	市役所の電算処理業務がスタートする	単人中学校が三笠中学校に統合される	栽培漁業センターで初の試験栽培「アカウニ」を放流する	野球場と庭球場が完成する	国道389号脇本バイパスが全線開通する	国道3号隈無バイパスが開通する	田代中学校が鶴川内中学校に統合される	川畑強市長退去、名誉市民第4号となる	「アクネ うまいネ 自然だネ」が統一ブランドマークとして決定する	
阿久根市農林業振興センターが完成する	鳥越古墳が発見される	国立療養所阿久根病院が出水郡医師会へ移管され、阿久根市民病院として発足する	集落再編整備事業により本之牟礼集落が倉津区へ集団移転する	国民宿舎あくねの大ホール「望洋の間」が落成	番所丘公園のゴーカート場、電気自動車オープン	黒之瀬戸大橋の通行が無料化される	水産加工団地、食肉加工団地が完成する	農村環境改善センターが完成する	阿久根市シルバー人材センターが発足する	阿久根・野母崎間の不定期客船航路が開設される	第3次阿久根市総合開発計画を策定する	市制施行40周年記念式典が行われる									

8月から収集用ゴミ袋が 統一されます

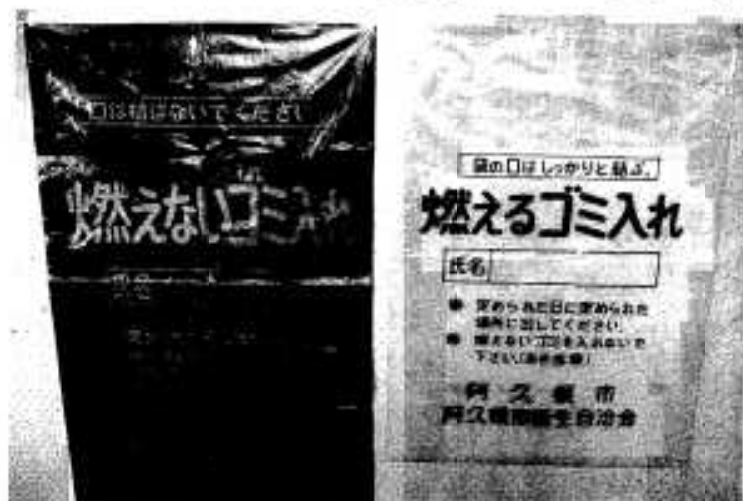
ごみの減量化と 環境美化をめざして 7月中に全家庭に袋を配布

市および市衛生自治会では、収集用ゴミ袋の統一に向け昨年からの準備を進めてきましたが、8月から市内一斉にゴミ袋を統一することになりました。

現在各家庭でばらばらに使用されているゴミ袋を統一することで、市民の皆さんにゴミに対する意識を高めてもらい、ごみの減量化を図ることと、環境美化に役立てることが大きな目的です。

事業の定着を図るため、7月中旬に最初は無料で各家庭に袋を配布します。8月からは指定された袋によりゴミを出してください。

増加の一途をたどるごみ。この状況に歯止めをかける一つの大きな取り組みです。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。



統一されるゴミ袋

8月から

ごみは指定の袋で

最初に無料配布される袋は、一戸あたり燃えるゴミ用袋が二十枚、燃えないゴミ用袋が四枚で、各区の区長を通じて配布されます。その後は、販売店からゴミ袋を購入していただくこととなります。

8月からは指定の袋以外のごみは収集しませんので、ご協力をお願いいたします。

※飲食店を含む事業所へは、袋は配布されませんので、事業所ごととして業者へ回収を依頼してください。

※区へ未加入の家庭においては、



(写真はモデル事業実施中のもの)

市役所環境保健課に袋が用意されていますので、取りに来てください。

●統一される袋

燃えるゴミ用

大きさ

……60cm×80cm

色……無色透明

燃えないゴミ用

大きさ

……60cm×80cm

色……淡い赤

※ゴミ袋に、氏名を記入のうえ出してください。

ごみ袋の販売店を 募集中!!

市では、ごみ袋の統一にあたり、袋の販売取り扱い店を募集しています。市役所環境保健課へ申し込んでください。

☎791211（内線）1433

家庭用ごみ焼却炉 の購入に補助金

本年度から、家庭用ごみ焼却炉の購入に補助金が支給されます。補助額は三万円を上限に購入費の二分の一です。詳細については、今月配布されるチラシをご覧ください。

3万人クリーン作戦 7月26日(日)

学校週五日制の導入

個性や創造性を伸ばす教育が狙い

平成四年九月実施

今年の二学期から「学校週五日制」が実施され、月一回、第二土曜日が休みになります。明治以来、一世紀以上にわたって続いていた週六日制にドリフトを打つことになりました。

この制度は、学校や家庭、地域での教育のあり方を見直しながら、これからの時代を担う子どもたちの望ましい人間性を育てようという目的があります。

学校は月曜日から土曜日まで通うもの——いま、この当然のような制度が変わろうとしています。

月一回の学校週五日制が実施される学校は、全国の国公立の幼稚園、小学校、中学校、高等

学校、盲・ろう養護学校です。また、私立の学校にもできるだけ歩調をあわせるよう協力が求められています。

では、なぜ土曜日を休みにするのでしょうか。社会全体が多様化し、大きく

変化するなかで、自ら考え、判断し、行動できる資質や能力を育てることを重視する教育が求められています。

今回実施される「学校週五日制」には、子どもたちが家庭や地域社会での生活時間を使って、違う年齢の仲間との遊び、自然体験、社会体験、生活体験などを増やすことで、このような資質や能力を根づかせるという意味がこめられています。

すなわち、共通した知識や技能を身につけることを重視したままでの教育から、個性や創造性を育てることを重視する教育を目指そうという狙いがあります。

実施に向けての「影響と対策」

文部省では、この制度の実施に向けて、二年前から全国六十八校をモデル校にして、研究、

その結果から、制度の実施による家庭、学校、地域への影響と対策、は次のとおりです。

家庭では

子どもが親と一緒に過ごすなかで、生き方や生活の知恵を学ぶようにすることが大切です。

しかし、共働きの子どもの場合、親が働いているため、子どもの生活の心配も忘れてはなりません。

例えば、子どもは学校が休みだけでも、親が働いているため午前中は子ども一人になってしまします。

そのため、幼稚園や小学校、盲・ろう養護学校では、出前の開、休みとなる土曜日にも、学校を開放するように呼びかけ、家庭での負担を少なくするようにしています。

いままで六日間学習していたことを五日間で学ぶことは、かえって子どもにも負担がかかるのではないかと問題があります。

これに対して学校では、授業の力やキヨウ編成や指導方法を工夫するようにしています。

休みになっても、何をすればよいか分からない、あるいは、活動の場所がない。これでは懸



味がありません。

そのため、学校にある施設の開放や公共施設の整備・充実を進めること、そして、大人のサポートが必要となってきます。例えば、周りの大人がいろいろなプログラムを考え、そのなかから、子どもの自主性にまかせ、責任をもって取り組ませるというようなことです。

社会全体で子どもたちを見守ろう

今後、学校週五日制の定着を図っていくうえで、学校、家庭、地域社会がいままでに以上に連携を深め、一体となって問題の解決に取り組む必要があります。休日が増えることにより、子どもたちの生活が活気あるものになるように、社会全体で見守り、対策を考えていきたいと思います。



さまざまな土砂災害の前兆



- ・木の裂ける音やゴロゴロと石が流れる音がする。
- ・川の水が急に濁ったり、流れに流木が混ざったりする。
- ・雨が降っているのに川の水かさが急に減り始めた。

- ・地面にひび割れができた。
- ・地面の一部が陥没したり盛り上がったたりした。
- ・池の水かさが急に変わった。
- ・井戸の水が濁った。



- ・がけから小石などがパラパラと落ちてくる。
- ・がけに裂け目が見えた。
- ・斜面の途中から突然水がわきだした。

大雨、がけ崩れに注意

もしもの時に備えましょう

梅雨期を迎え、集中豪雨等による土砂災害が心配される時期になりました。

日本の国土は約八割が山地や丘陵地、台地といふこともあり、土砂災害危険地域が全国に十六万か所もあります。本県でも、例年各地で崖くずれや土石流などの大災害が発生し、多くの尊い人命や財産が失われています。

▼雨量百以上は要注意

一般に土砂災害の発生と雨量との関係については、一時間に二十以上、または、降り始めからの雨量が百以上になったら要注意といわれています。

がけ地や川のそば、山がすぐ近くに迫っているところに家がある方は気象情報に耳を傾け、

土砂災害に十分注意しましょう。また、避難場所、避難路を決めておき、危ないと思ったら早めに避難しましょう。

災害危険箇所を点検

梅雨入りを前にして、市では五月二十七日、市内の災害危険箇所の点検を実施し、対策を検討しました。

点検には新井勝記市長をはじめ、県や市の関係者ら約二十人が出席。点検箇所は、大雨時に人家の浸水などの恐れがある湿地区やがけ崩れの危険性のある



がけ地など危険箇所を点検

所など五箇所。点検のあと早速対策会議を開き、それぞれの危険箇所の防災対策について検討しました。

「完全参加と平等」をめざして

身障者まちづくりシンポジウム

身体障害者の自立意識の高揚と障害者福祉の向上を目指して、阿久根市身体障害者街づくりシンポジウムが五月十三日、市民会館で開かれました。今年も国連・障害者十年の最終年にあたり、参加者たちは今後「完全参加と平等」の理念の実現を目指して努力して行くことを確認しました。

会には約二百人が出席。第一部の式典では、体に障害を持ちながらも積極的に社会活動に参加

加し、他の模範となっている五人を表彰。第二部では市内西目光明寺の齋藤暁生住職が「身と心」と題しての講演がありました。

○自立更生部門

表彰を受けた方は次のとおりです。



障害を克服し活躍している方々を表彰

- 松下三子年（桐野下）
- 上野明人（横手）
- 駄木栄成（瀬之浦下）
- 陣屋次夫（陣之尾）
- 神之田保（大丸）

相談

- ▼年金（市役所）
- 6月19日（金） 10時～16時
- 7月20日（月）
- ▼税金（商工会議所）
- 6月22日（月） 10時～15時
- 7月20日（月）
- ▼交通事故
- 7月9日（木） 9時30分～16時
- 8月20日（木）

ウミガメを守ろう！

保護監視パトロール始まる

脇本海岸

脇本海岸に上陸するアカウミガメを保護しようと、夜間のパトロールが始まり五月二十七日、脇本地区公民館でその開始式がありました。

本市で保護パトロールが始まってから今年で三年目。昨年は五十五頭の産卵が確認され、八月にはふ化した子ガメの放流も行われています。

警察、地区の協力員、親子連れら約五十人が出席。保護監視員として、折口東区の山口勝彦さん(48)、上原区の鯨島力さん(44)らに委嘱状と腕章が手渡されました。

このあと出席者全員で脇本海岸のパトロールを実施し、ウミガメを自分たちの手で守ろうと暗闇の砂浜を歩きました。



夜の浜辺をパトロールする関係者ら

初まで約三ヵ月間、毎日続けられます。市民の皆さんもウミガメ保護に対する意識を高めてもらい、同時にウミガメの訪れるすばらしい環境を市民共有の財産として残していけるよう、環境保全にもご協力ください。

多目的屋内運動場

最高のコンディションに満足

落成記念ゲートボール大会



天候に左右されずにプレーできます

総合運動公園内に完成した多目的雨天屋内運動場の落成を記念して五月十九日、市主催によるゲートボール大会が開かれました。同施設での競技会はこれが初めて。

雨天屋内運動場は工事費約一

億二千六百万円を投じて今年三月に竣工。幅約四十メートル、長さ約五十メートルで延床面積は千九百九十八平方メートル。鉄骨平屋で地面はクレー舗装してあります。

大会には市内各校区から二十五チーム、百四十人が参加。新戸勝記市長の始球式の後、四コートに分かれて競技を楽しみました。

参加者は「風雨にも左右されず、常に最高のコンディションでプレーできる」と新しい施設に満足していました。

なお、大会の結果は次のとおりです。

- ▼一位 黒潮会 ▼二位 梶之浦東
- ▼三位 川北 折口A

税について理解と認識を

「租税教室」を開くー大川中

税に対する正しい知識を早い時期から持つてもらおうと五月二十五日、大川中学校で全校生徒を対象にした「租税教室」が開かれました。

町内では今回がその第一回目の試みです。

体育館に集合した生徒らを前に、出水税務署の秋岡隆敏総務課長が「税のしくみとその役割について」という演題で、テキストを使いながら約五十分講演。国税、地方税などの税の種類やその使い道などを分かりやすく解説を行いました。

今年二月に「出水地区租税教育推進協議会」が発足し、将来の日本を背負う青少年に税の正しい知識を習得してもらおうための取り組みが決議されたのを受けてのこと、出水地区二市四

生徒らも、暮らしを支える税の役割り、など、熱心に説明を聞く生徒ら



税の役割り、など、熱心に説明を聞く生徒ら

そろいの頭巾とちゃんちゃんこで

還暦を祝う

—西目校区の「60歳組」—

今年六十歳を迎える西目小学校の卒業生たちが五月十七日、校区の福半礼神社に集まり、還暦の祝いと今後の活躍を誓い合



そろいの赤のちゃんちゃんこで還暦を祝いました

いました。

集まったのは、第二次大戦末期の昭和二十年三月に西目小学校を卒業した二十七人。「五十歳組」の同窓会から数年ごとに集まっており、五十五歳の時には、戦争のためできなかった修学旅行を計画、森島への一泊旅行を実施しています。今回は懐

かしい顔に会いに市内をはじめ鹿兒島市や枕崎市からも駆けつけました。

この日、参加者たちは小さいころ遊んだ同神社に集まり、全員赤色の頭巾（ずきん）とちゃんちゃんこ姿で、厄払いをかねて神事を行い、無事に還暦を迎えられたことに感謝するとともに、今後の健康を誓っていました。

会場を移しての懇親会では、思い出話に花が咲き、踊りなどの演芸も飛び出して楽しい同窓会となりました。

発団40周年を祝う

—ボーイスカウト阿久根第1団—

ボーイスカウト阿久根第1団の発団40周年記念式典が5月4日、国民宿舎あくわで開かれ、団運営に尽力した歴代隊長や後援者などに感謝状が贈られました。式には団OBなど関係者約80人が出席し、これまでの活動の歴史などを振り返り、今後更なる団活動の充実発展を誓いました。またその後祝賀会では団員による手旗信号など日頃の練習の成果も披露されました。



大航海時代の語りべ

スペイン砲を展示

神戸でのコロンプス展で

神戸海洋博物館で開かれたコロンプス展（四月二十八日―五月三十一日まで開催）に市立図書館所蔵のスペイン砲が展示され、十六世紀の大航海時代を語る貴重な遺物として来場者の注目を集めました。

スペイン砲は昭和三十三年三月、現在の阿久根新港にあたる砂浜で地元の小学生が偶然に発

見。当時の専門家の鑑定で「仏郎機（ふつろうき）」と呼ばれる十六世紀のスペイン砲であることが判明しました。純銅に近い合金製で重さは約三百ポンド、砲身は三層にもおよびます。同型の大砲は世界にはほとんど残っておらず、三十四年県文化財三十七号として指定されました。今回の展示にあたっては、四

月十六日に市立図書館で搬出作業があり、大人六人がかりで約一時間かけてトラックへの積み込みが行われました。

展示されたのは「船首をジバングヘー！コロンプスとその時代」展。コロンプスがアメリカ大陸を発見して五百年目にあたるのを記念して開催されたものです。

会場には十五・六世紀の様子を今に伝える貴重な資料、約百点を展示。その中でスペイン砲は来場者を迎える会場入り口に飾られて、展示会のシンボリック存在を努めました。スペイン砲は平成二年に福岡



会場入口に展示されたスペイン砲

市での展覧会に出品されたことがあり、今回は二回目の「市外出張」。九州外で展示されたのは初めてです。

アルバム



⑨1211 内線 1214



今年も多勢の人がひな女を祝福

ひな女背負いハンヤ節 健やかな成長願う—佐潟区

生まれて間もない女の子を背中に背負い、健やかな成長と子孫の繁栄を祈る佐潟区の伝統行事「ひな女祭り」が五月十日、同地区の漁港広場であり、にぎやかなおどりとほやしが新しい生命の門出を盛大に祝いました。「命長（いのちなが）」とも

今年（ひな女）は、集落内に住む会社員佐潟利昭さん（30）夫婦の重利沙ちゃん、福岡市の会社員富吉竜二さん（28）夫婦の知佳ちゃん（二人）。

毎年、お祝さまの誕生日である旧暦四月八日に開かれており、今年も丁度日曜日と重なったこと



呼ばれるこの祭りは、父親が佐潟区の出身で、ここ一年間に長女を授かった人だけが祝福の対象となる習わし。周囲の人へのお披露目をするため、ひな女は背中合わせに背負われ、踊りが続けられます。

たことで、会場には見物人やカメラマンが大勢詰めかけました。ひな女は晴れ着に身を包み、薄化粧に鉢巻き姿で登場。太鼓や三味線のはやしにあわせ、父方の祖母を皮切りに親戚や知人が代わるがわる背負い、軽快な手つき、足取りで喜びを表現。「ひな女に幸多かれ」と生を授かって間もない小さな主役は、多くの人から祝福を受けていました。

故尾崎末吉代議士を偲び 顕彰碑を建立

尾崎区

元衆議院議員で本市尾崎区出身の故尾崎末吉代議士の遺徳を偲ぶ顕彰碑が建立され五月三日その除幕式がありました。

式には同氏の親族や地区関係者ら約七十名が参列。後輩に当

たる尾崎小学校児童らの手により除幕が行われました。生誕の地に建てられた顕彰碑には「七転び八起き」の文字が刻まれ同氏の生前の政治信条を伺い知ることが出来ます。

尾崎末吉氏は明治二十七年生まれ。日本大学法律科を卒業後昭和二十二年、鹿児島二区から衆議院に初当選。昭和三十年二月まで連続四期、国会議員として地域の振興発展に尽力されました。その間、衆議院予算委員長なども歴任されています。

尾崎小学校で行われた懇談会では、同氏の思い出話なども披露

おみやげは300キロの「南極の石」

—古里区出身の松下栄一さん—

第33次南極観測支援隊「しらせ」の乗組員で本市古里区出身の松下栄一さん（29）が5月11日、市役所を訪れ、約300キロもある大きな「南極の石」をプレゼントしました。

松下さんは海上自衛隊横須賀基地に所属。昭和基地への食料等の物資を運ぶため南極へ行ったもので、「市制40周年の記念とお祝いをおかねて」と、石を持ち帰ったものです。この珍しい石は市役所の正面玄関に飾られています。乗舟の際には是非ご覧ください。



露され、その功績を振り返っていました。



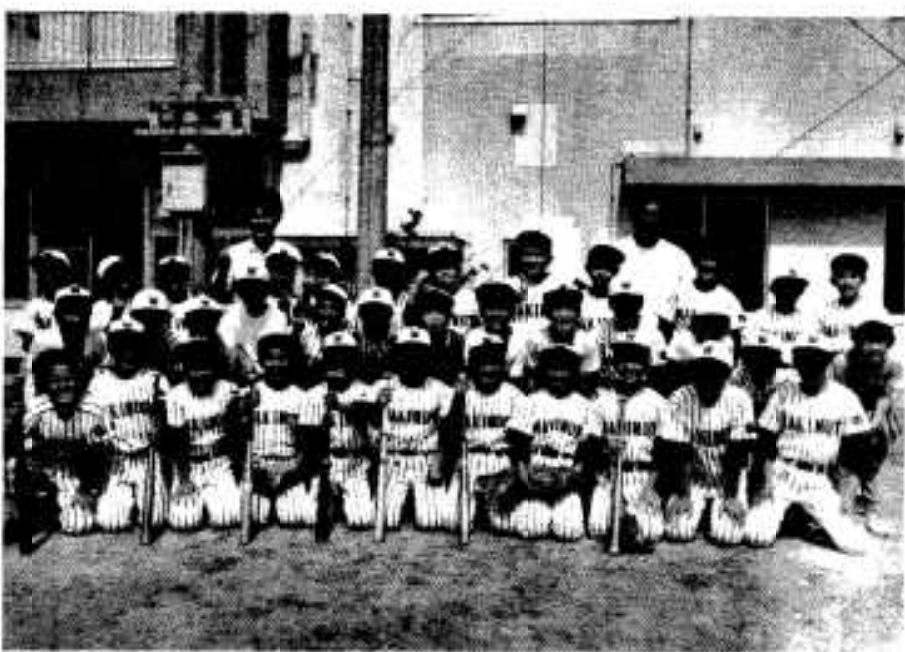
尾崎氏の生誕の地に建てられた碑



心と体を鍛え 勉強、スポーツの両立を! 「脇本ソフトボール スポーツ少年団」

僕たち脇本ソフトボールスポーツ少年団は、六年生十三名、五年生十三名、四年生十名、三年生三名の計三十九名の団員で活動しています。毎週火、木、土曜日に、脇本小の校庭で練習しています。

練習では、体力づくりと基本練習を中心に、守備や打撃練習にも励んでいます。特に、僕たち六年生のAチームは、県大会



に備えて張り切っています。

監督は、南先生、中山先生、岩戸先生の三名で、いつも熱心に教えてもらっています。毎日楽しく、時には厳しくて、ドラマとしていとひどくおこられます。だけどこういう先生がいるからこそいいと思います。

僕たち六年生は、六月、七月、三月の県大会で良い成績を残し、来年の六年生の励みになるよう

にがんばろうと思います。

そして、礼儀や行動面でも、下級生に手本を示せるように、これからもがんばっていきましょうと思います。応援してください。

(主将 高津光広)

このコーナーへの参加グループを募集しています。市役所広報係までご連絡を。

郷土資料館の展示資料紹介

矢立 ③⑦

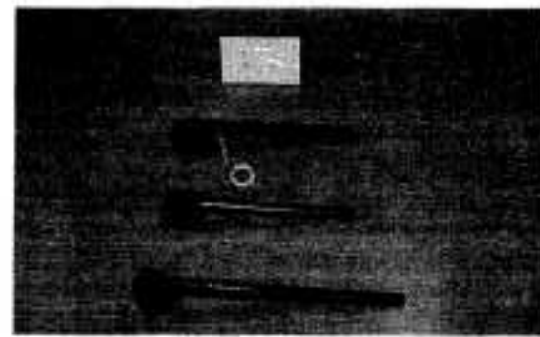
「携帯用の筆記道具・筆を入れる筒の先に墨壺をつけたもので、帯に挟む」と(大辞林・三省堂)書いてあります。

ボールペンや万年筆が使われるまえの日本の携帯筆記用具で、始まりは鎌倉時代に武士が使用したといわれます。

江戸時代になると庶民の間にも流行して旅人たちは矢立を腰に挟んでいろいろ書きつづりました。明治時代になると万年筆が普及して矢立はだんだん使われなくなりました。

材料としては、金・銀・銅、黄銅・赤銅四分一(銅と銀の合金)その他の金属・牙・骨・陶磁器唐木その他のものでつくられ、江戸時代になると、実用品からしだいに趣味的なものへと変わり花模様をうち出したものや、象嵌模様をつけたりしたもの、青貝で飾ったものなどしやれたものもつくられました。

形は、筆入れと墨壺を一つにまとめたものと筆入れと墨壺を別にしたもの、小型・中型・大型で手のこんだものから頑丈なものまでいろいろつくられました。墨壺の中にはパンヤとかモグサ・綿を入れて、墨汁を入れ中の墨汁がこぼれないようにつけました。蓋は左開き、右開きがあって、筆は墨壺から真直ぐ伸びた棒に取められるようになっていました。



友だちの輪 ⑥1

波留区

角京子さん(22)



- 趣味 ショッピング
- 好きな言葉 Fight/
- 理想のタイトル いざという時頼りになる人
- 思い出 短大時代、よそで過ごしたことかな
- 何か一言 今年も夏が来た!

※次の友だちを紹介してください。
 黒之浜区の福留さおりさん
 次はあなたの出番です。

サンセットコンサート

南こうせつがやって来る

チケット発売中

阿久根の夕日が

新しい夏を

奏ではじめた

7月19日(日)
 於:阿久根新港
 野外特設会場



▽開場 17時30分
 ▼開演 19時30分
 ▼チケット(全席自由)
 大人 3,500円
 中学生 2,000円
 (当日券はいずれも千円増)
 小学生以下は保護者同伴のうえ無料
 ※チケットの購入、お問い合わせは、阿久根青年会議所まで
 ☎3293

図書館だより

今月の新着図書



- ▼山口剛「エイズの真実」▼森英一「林芙美子の形成」▼荻野アンナ「コジキ外伝」▼島田雅彦「預言者の名前」▼堀和久「織田有楽斎」▼常盤新平「新緑の風にゆられて」▼中村彰彦「五左衛門坂の敵討」▼曾野綾子「大説でなくて小説」▼高橋克彦「大城」▼江藤淳「漱石論集」▼中村真一郎「文字としての評伝」▼辻邦生「遥かなる旅への追想」▼須賀敦子「コルシア書店の仲間たち」▼白石一郎「江戸の海」▼水上洋子「恋愛国(カリア)からの手紙」▼五木寛之「午後の白曲像」▼三好徹「幸運な志士」▼森下陽「丘の雑草(あらくさ)たち」▼木村奈保子「セクシャル・ウェポン」▼玉岡かおる「サイレント・ラブ」▼落合恵子「クールビューティによろしく」

阿久根短歌会

行く道の右も左も山々は緑の中に竹やはらかし
 赤瀬川 葉瀬 紀夫
 来世また共に添ふこと望みつづ
 旅来し寺に数珠二つ買ふ
 琴平 川畑 スミ
 牡丹の花咲き盛る園の中にして
 中国産は花芯の赤し
 赤瀬川 新坂 邦
 大病の癒えて届きしカーネーション
 その夜電話に孫の唄きく
 本町 河南 節子
 白日に屋根のトタンを塗りなが
 ら糊塗したき過去不意に還り来
 赤瀬川 海平 三蔵
 わが娘この時を幾度か住反し
 つつ任期を終へん
 新町 遠矢 律
 弟の納骨堂に入れるべく土となり
 たる母を廻り上ぐ
 大丸 橋崎 幸
 過疎すすむわが街行きて淋しけれ
 耳鼻科も眼科も病院となる
 上野 河南誠一郎
 式場の高原ホテルに集ふ人異口
 同音に桜島たふ
 藤本 土田美蓉子
 長命の母を憶へば氣にしるしわ
 が眼の下のはくろも古りぬ
 協本 宮原 範子

誕生

おめでとう



上野 直人	川崎 友美	飛山 大地	今堀 来夢	田畑 順平	野村 航奨	鳴海 凌	上野 彩香	出生児	保護者(区名)
浩司(梅)	晃(湯)	隆徳(鶴之西)	純治(下村)	典俊(上原)	匡(鶴之西)	敏郎(大丸)	一郎(丸内)		

※敬称略

『ミスあくね』大募集!!

ふるさとのPRに一役買いませんか

阿久根商工会議所青年部では市制施行40周年と同部の設立を記念して『ミスあくね』を募集します。ふるさと阿久根を広く宣伝し、イメージアップを図るとともに、各種イベントやキャンペーンをとおして、本市の観光や特産品のPRのお手伝いをさせていただきます。

自薦、他薦を問いません。多くの応募をお待ちしています。

▼応募資格

- ・阿久根市近郊在住の18~26歳までの未婚の女性

▼応募要領

- ・写真と履歴書を提出してください
- ・自薦、他薦を問いません

(事業所からの推薦も歓迎)

▼任期 1年間

▼締め切り 7月中旬

▼選出方法

- ・書類審査と面接により3名のミスを選出

▼特典

- ・3名に賞金10万円ずつ、制服、靴、帽子を支給

※申し込み先、お問い合わせは

阿久根商工会議所青年部まで。☎73-1185

給油所の日曜当番店

下路龍太郎	十三(波留)	○7月5日
大平 夢歌	守(黒之浜)	築瀬石油(赤瀬川) 021093
野崎 貴将	正信(下村)	阿久根石油(鶴見町) 020389
横手 千幸	孝一(湯)	○7月12日
内園 崇宏	重行(大尾)	南国殖産(鶴見町) 020362
古川 謙嗣	謙治(大林)	マルハ商事(鶴見町) 020688
赤木 若菜	文明(中村)	○7月19日
濱崎 七彩	靖雄(佐湯)	折口石油(折口) 020251
川俣 澄佳	徳男(新町)	JA阿久根(波留) 020075

社協だより

次の方々から市社会福祉協議会に香典返し等の寄付がありました。ありがとうございます。

高原定雄(梅) 濱崎リサ子(佐湯) 中野義博(高松) 東園ミ子(湯)

雲仙、普賢岳災害義援金 義援金総額(五月末日現在) 百一十七万七千六百四十四円

赤十字社を通じて、被災者の方へ送られます。

■訂正とおわび

5月号の誕生おめでとうの欄で、保護者名が間違っていました。訂正してお詫言いたします。

出生児 保護者 ※敬称略
 笹原 星南 勇一(桐野上)

篤志寄付

「みんなのアルバム」の欄で紹介した、西目校区の還暦を迎

「めいぶくを お祈りします

死亡者(区名)	※敬称略
富永 秋義 57(段) 信子	→ノ瀬タエ子 63(新町) 石原清重
馬場ミチノ 103(新町) 新町ヒデ	坂口センマツ 77(瀬之下) 三男
塩福 岩雄 74(中村) ハナエ	本田 ワカ 84(波留) 光義
東園 市雄 64(高之口) 友春	寺地 重夫 63(尻無下) 重都
長野 金秋 78(湯) カワノ	山本ミサノ 79(桐野下) 勝己
	濱之上チカノ 81(鶴馬場) 治憲
	大曲 金喜 79(高松) シヨミツ
	大渡 正衛 79(寺山) フミ子
	佐湯 松雄 59(湯) スミ子
	松木 文子 68(小渡) 杉安順子
	奥平ツル子 54(中屋敷) 常雄
	尾原 清 89(尾原) チエ

えられた方々より、市政に役立ててと三万円を、またお詩吟朗誦城会児童島県本部より、文化振興に役立ててと五万円の寄付をいただきました。ありがとうございました。



人口

6月1日現在 (内は前月比)	
人口	28,236人 (+9)
男	13,099人 (+11)
女	15,137人 (-2)
世帯数	10,380戸 (+10)
出生	18人
死亡	16人
転入	78人
転出	75人

△ 国税だより △

源泉所得税の納期特例と納付

給与などから源泉徴収した所得税は、徴収した月の翌月十日までに納付することになってい

ます。
給与の支給人員が常時十人未満の事業所では、一定の手続きをすることにより毎月の納付を年二回の納付で済ませることができ、これを「源泉所得税の納付の特例」制度といひます。この制度を利用しますと、一月から六月までに源泉徴収した

所得税は七月十日までに、七月から十二月までに源泉徴収した所得税は翌年の一月十日までに納めればよいこととなります。

また、納期の特例の承認を受けている源泉徴収義務者の方で、一定の手続きを行えば、七月から十二月までの分については、翌年の一月二十日までに納めればよい「納付期限の特例」の制度もあります。

ていない源泉徴収義務者の方には、この機会に利用されるようお勧めします。

なお、既に「源泉所得税の納期の特例」を利用されている源泉徴収義務者の方は、一月から六月までに徴収した分を忘れずに七月十日までに納めてください。

源泉所得税の納期の特例等のことでお分かりにならないことがありましたら、お近くの税務署や税務相談室にお気軽にお尋ねください。

出水税務署

☎0200

鹿児島税務相談室

☎0992263669

7/5(日) 海開き



阿久根大島では午前11時より“海開きお楽しみイベント”を開催します。

- ビンゴ大会
- 宝さがし大会
- コーラ早飲み大会etc

ご家族でお越しください。

▷お問い合わせ 市観光協会 ☎73-1211 (内) 1113

コミュニティ助成事業によりトイレを新設

総合運動公園

総合運動公園の雨天屋内運動場内に、この程立派なトイレが完成しました。

これは、一般コミュニティ助成事業(宝くじ助成施設)として、工事費二百四十七万六千円をかけて建設されました。鉄筋コンクリート造り平家建てで、車イス専用トイレも設けられています。

これから雨天屋内運動場の



車イス専用トイレも設置

利用が増えることが予想され、利用者にとっては大変便利になりました。

保健婦から一言

平成4年度から

基本健診の

検査項目が増えました

平成4年度から、老人保健法による基本健康診査の血液検査項目が増え、脂質の検査(HDLコレステロール、中性脂肪)、肝機能検査(γ-GTP)、腎機能検査(クレアチニン)の4種類が加わりました。

この基本健康診査は、高血圧や心臓病・糖尿病などの成人病を早期に発見する目的で、40歳以上の方を対象に実施していま

す。

自覚症状がないと、つい健康と思いがちですが、成人病は気づかないまま進行することが多いものです。心臓病や脳卒中は一見急におこるようみえますが、長い間徐々に進んできた高血圧や動脈硬化が引きがねになることが多くあります。

そこで、自分の健康状態を日頃から把握するためにも定期的な健診が必要になります。市では各地区を巡回し基本健診を実施しますので、ぜひ受診してください。

在宅医さん

日曜・祭日の在宅医さんの診療時間は午前9時から午後5時までです。患者の方以外はご連絡ください。

○7月5日
阿久根内科病院 ☎0578(新町)

○7月12日
植村整形外科 ☎1041(段)

○7月19日
脇本病院 ☎2121(橋之西)

○7月26日
有村婦人科内科 ☎4180(上野)

上園医院 ☎1055(本町)
※救急の場合、市民病院はいつでも対応します。

毎月10日は

「県民健康

づくりの日」

一人一人が自分のそとて家族の健康づくりについて考え、実践する日です。皆で食事や運動など生活習慣を見直す日としましょう。

ワンちゃんの

ひきとり

7月7日・16日・28日

10時から10時30分

出水保健所から保健センターにひきとりにきます。

戦後強制抑留者の皆様へ

—請求はお済みですか—

平和祈念事業特別基金（総理府所管の認可法人）では、戦後、旧ソ連またはモンゴルの地域において強制抑留された方、またはそのご遺族に内閣総理大臣名お慰勞品（書状・銀杯）を贈呈しております。また、これらの方々のうち、年金恩給や公務員の共済年金などを支給されていない方には、更に慰勞金（十万円）が支給されます。

なお、請求期限は平成五年三月三十一日までです。

▼請求書類の送付先、お問い合わせ先

〒112 東京都文京区大塚五丁目三十一番三

平和祈念事業特別基金 業務第二課 ☎03-3945-147

03-4707

なお、請求書類は市役所福祉事務所に置いてあります。

宅地建物取引主任者資格試験

平成4年度の住宅建物取引主任者資格試験を次のとおり実施します。

1 試験日時 平成4年10月18日(日)午後1時～午後3時

2 実施場所 受験申込み受付の際指定します。(鹿児島市内)

家屋の一斉調査についてのお願い

—公平で正しい課税のために—

固定資産税につきましてはこれまで多種多様の是正の意見を頂いております。順次改善に努めておりますが、様々な理由により問題が残されております。

そのため下記のとおり、市内全ての家屋の調査をさせて頂くことになりました。公平で正しい課税を行うため、また証明発行・税相談にも生かしたいと思っております。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

▼調査期間

平成4年夏～平成6年2月まで（具体的な日程が決まり次第お知らせします）

▼主な調査内容

- ①所有者名と納付書発送の確認
- ②所在地番の確認と家屋配置図の記入
- ③未調査の新築・増築分の評価
- ④壊れたり、廃きよになっている家屋の確認（ありましたら至急届けてください）

※お願い

- 貸家を所有されている場合、居住者の了承を得ておいてください。
- 飼犬はつないでおいてください。

調査についてのお問い合わせは、
市役所税務課 固定資産税係まで。
☎73-1211 内線1445

- 3 願書受付
 - ・期間 平成4年7月27日(月)～7月31日(金)
 - ・場所 (財)鹿児島県住宅・建築総合センター
- 4 願書配布
 - ・期間 平成4年7月6日(月)～7月31日(金)
 - ・場所 (財)鹿児島県住宅・建築総合センター
県庁建築課、各支庁土木課、各土木事務所

- 5 問い合わせ先
 - (財)鹿児島県住宅・建築総合センター(鹿児島市新屋敷町十六-1-2) ☎099-24539

国家公務員採用Ⅲ種試験(高卒程度)

▼受験資格

昭和44年4月2日(郵政は44年4月2日、税務は47年4月2日)～50年4月1日生まれの者

▼申し込み受付期間

7月1日(水)～8日(水)

▼第一次試験日

9月13日(日)

お問い合わせは、人事院九州事務局試験係まで。
☎092-431-7733

番所丘公園の臨時職員募集

- 募集人員 男子2名
- 年齢 20～40歳ぐらいまで
- 締め切り 7月10日(金)
- ※申し込み、お問い合わせは市役所商工観光課まで。☎73-1211内線1111

編集後記

昔ながらに、近隣の人が集まって田植えをしていました。和気あいあいの雰囲気の中、共同作業で水田はみるみるうちに緑の苗で覆われました。

以前は、人が集まらなければ進まなかった作業も、現在は機械化が進み少数人数で多くの仕事ができるようになりました。しかし反面、みんなが集い、作業を通して情報交換を行うといった機会は少なくなりました。時間が多くなりつつある今日、昔ながらの人の交流、心のふれあいは保ち続けたいものです。